

明日に向かって

県政活動レポート

報告レポート No.71



工藤 兼光
ホームページ
はこちらから

6月議会は予算に関する議案はありませんでした。今回は3月議会の報告できなかった分と常任委員会、政務活動など報告していきます。つたない報告ではございますが、ご高覧頂き、貴重な皆様の声を届けて頂きます様お待ちしております。



鰺ヶ沢道路河川事業所、佐藤所長と細川次長に
鰺ヶ沢町、深浦町の主な事業の進捗状況について説明を受ける。



電話でお金の話、それは詐欺です

警察や金融機関、役所の職員がキャッシュカードを預かったり、暗証番号を聞くことは絶対に無い。

ATMで還付金などを受け取ることは絶対にできない。

だまされないでね！

特殊詐欺被害は、
ほぼ毎日のように
新聞紙上に掲載されて
います。

振り込め詐欺に注意！



青森県消費生活センター
マスコットキャラクター
「テルミちゃん」 ☎ (Tel Me)

青森県特殊詐欺被害防止キャラクター
「サギかもくん」

消費者ホットライン

い や や！

☎188

〔青森県消費者生活センター〕
017-722-3343

警察安全相談電話

#9110

または
017-735-9110

警察資料から

青森県議会議員

工藤 兼光

皆様のご意見、ご要望をお寄せください。

〒038-2712 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字長平町字甲音羽山59-2
TEL 0173-72-1224・FAX 0173-72-1233

討 議 資 料

問2 稲作の生産振興について

稲作の省力・低コスト生産技術の確立に向けた県の取組について伺いたい。

昨今、外食やインバウンド需要の増大に加え、流通量の不足感の広がりから全国的に米の価格が急激に上昇しています。

一方、生産現場においては、燃料や資材価格の高騰、担い手の減少など様々な課題があると捉えています。

このような目まぐるしく変化する環境の中で、今後も稲作農家が持続的に米を生産していくためには、所得をしっかりと確保できるような対策を強化していく必要があると考えます。

昨年3月に県が公表した青森の「米づくり新時代」推進方策において、農業所得の向上に資する主な取組として「省力・低コスト、多収による生産費の削減」と「高値で売れるプレミアム米の生産拡大」を掲げており、その成果が期待されるところです。

そこで、2点質問いたします。

1点目として、稲作の省力・低コスト生産技術の確立に向けた県の取組についてお伺いいたします。



答1 県では、米価の変動に左右されず、生産者が一定の所得を確保できる稲作経営を実現するため、慣行栽培で1俵当たり約11,000円を要する生産費を、7,000円以下に抑える「超・低コスト米」の生産技術の確立に取り組んでいます。

2 取組初年度の今年度は、五所川原市において、収量性が高い「まっしぐら」を対象に、育苗を必要としないV溝乾田直播栽培に低価格な肥料を組み合わせた実証試験を行った結果、生産費を約9,600円に削減することができました。

3 来年度は、スマート農業技術を活用した施肥改善など、本県に適した省力・低コスト技術や多収技術を実証し、目標の達成に向けて取り組んでいきます。



ドローンによる薬剤散布

県の農林水産部では「超・低コスト米」の生産技術の確立に取り組んでいます。

問2 稲作の生産振興について

(2) 付加価値の高い米づくりに向けた県の取組について伺いたい。

答1 県では、ブランド米の付加価値を高め、生産者の所得向上につなげるため、「青天の霹靂」を対象に一般栽培の2倍の精米販売価格を目標とする「超・プレミアム米」について、生産技術の確立に取り組んでいます。

2 今年度は、化学肥料や化学農薬を使用しない有機栽培に、農福連携を取り入れた取組を実証するとともに、生産された米を関西地区の小売店や米の現物取引市場において、取組内容をPRしながら試験販売を行いました。

3 令和6年産米は全国的に価格が高騰しているため、取組の成果が見えにくい状況ですが、小売店では一般栽培の「青天の霹靂」よりも16パーセント高く、現物取引市場では他の有機米と同等以上の価格で販売されたところです。

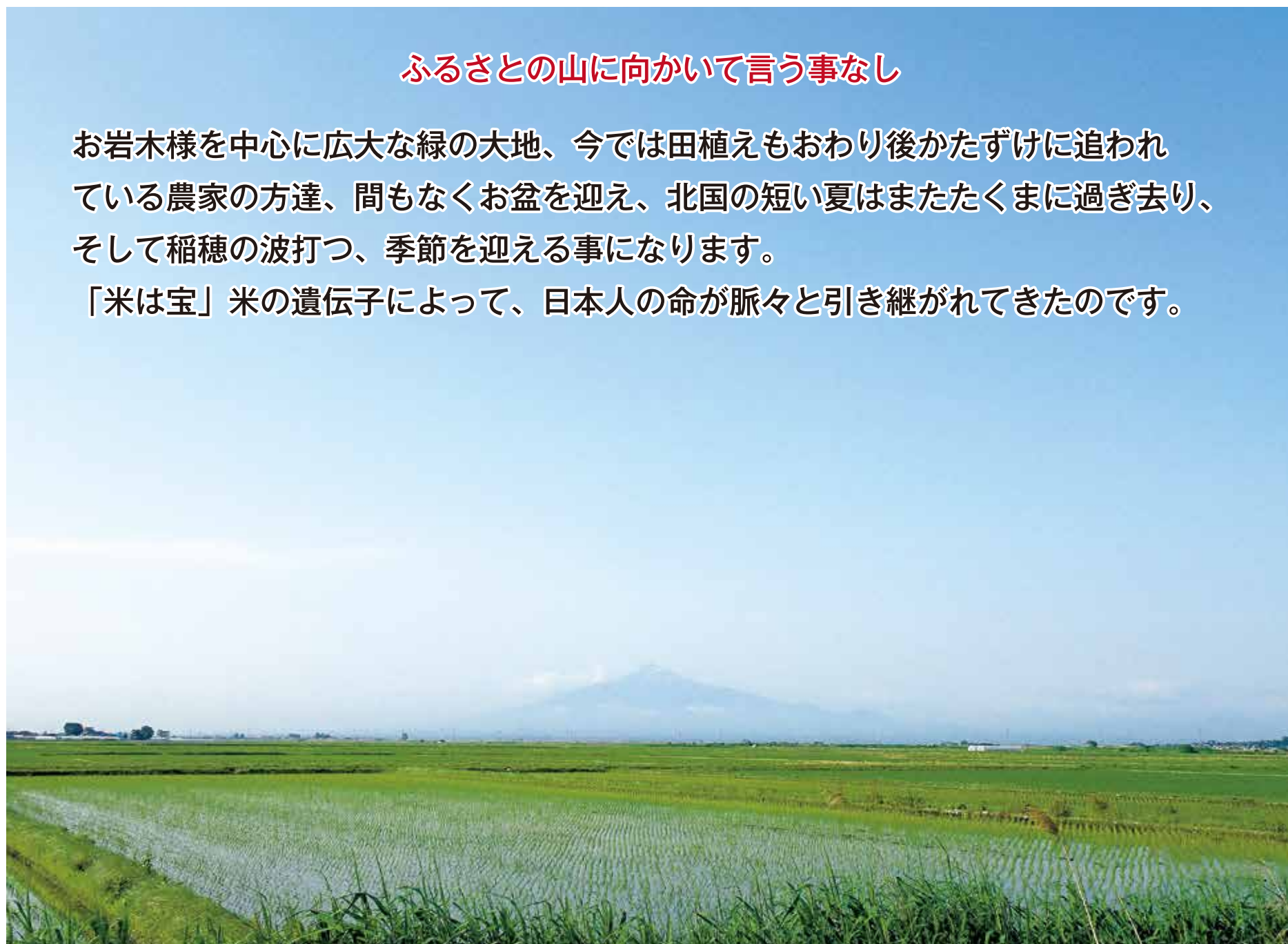
4 来年度は、新たに高度な精米技術を取り入れるなど、目標達成に向けて付加価値を更に高める取組に挑戦していくこととしています。



ふるさとの山に向かいて言う事なし

お岩木様を中心に広大な緑の大地、今では田植えもおわり後かたづけに追われている農家の方達、間もなくお盆を迎え、北国の短い夏はまたたくまに過ぎ去り、そして稲穂の波打つ、季節を迎える事になります。

「米は宝」米の遺伝子によって、日本人の命が脈々と引き継がれてきたのです。



問3 次に、本県日本海の漁業振興について

本県の水産業は、近年、地球温暖化による世界的な海水温の上昇や、それに伴う我が国や本県沿岸の漁場環境の変化などに伴い、主要魚種であるスルメイカやサケなどの回遊魚の漁獲が減少しているなど、非常に厳しい状況が続いています。

西北地域の漁業についても、これまでは主にスルメイカやブリ、サケ、ハタハタなどの回遊魚により支えられてきましたが、年により豊漁・不漁があることから、不安定な漁業となっています。

こうした状況の中で、漁業者の経営安定に向け、持続可能な水産業の実現が大切であることはもちろん、この厳しい現状を打するためには、「つくり育てる漁業」漁場整備などの取組を一層推進し、地先の漁業資源の維持・増大を図るとともに、養殖業にも取り組んでいくことが必要であると考えています。

本県においては、陸奥湾でホタテガイ養殖が行われているほか、近年は深浦町でもサーモン養殖など新たな養殖の取組が盛んに行われています。

また、各地においてコンブなどの海藻資源の増養殖や、新たな魚種の養殖にも試験的に取り組まれていると認識しており、西北地域でもこうした取組を強化していくべきと考えます。

また、日頃から、地元の方々と様々な意見交換を行っている中で、漁業者からは、ホンダワラなどの藻場にウスメバルの稚魚などが集まっているとの話をよく聞いており、水主資源の回復には藻場の整備が重要だと考えています。

そこで、2点質問いたします。

(2) 1点目として、西北地域における「つくり育てる漁業」の推進に向け、県はどのように取り組んでいるのかお伺いいたします。

答1 漁獲量の低迷が続く中、県では、「つくり育てる漁業」を推進しており、西北地域では、深浦港及び北金ヶ沢漁港において、平成27年度からサーモン養殖に関する飼育や販売などの試験に取り組み、平成30年度には養殖事業がスタートしています。

2 今年度からは、両港において、サーモン養殖で発生する食べ残しの餌などを、放流したナマコの餌とすることや、さらには、餌などが分解されて発生する栄養塩を、ワカメやアカモクの養殖に活用する実証試験を行うなど、多様な水産資源による持続可能な増養殖モデルの確立に取り組んでいるところです。



サーモン養殖での食べ残しなどで成長する西海岸のナマコ、タコに骨なし、ナマコに骨なし、と言うけれどナマコには沢山の骨があるんだそうです。

2点目として、西北地域における水産資源回復に向けた藻場整備について、県はどのように取り組んでいるのか伺いたい。

答1 海藻類が繁茂する藻場は、西北地域の重要な魚種であるウスメバルやハタハタ、ヤリイカなどの産卵、成育の場であるとともに、ナマコの隠れ場やウニの餌場となるなど、水産資源を回復する上で欠かせない役割を果たしています。

2 県では、令和5年度から国の補助事業を活用し、西北地域の14か所において、海藻が付着しやすい面を多く持つコンクリートブロックの設置などの藻場整備に取り組んでいるところです。

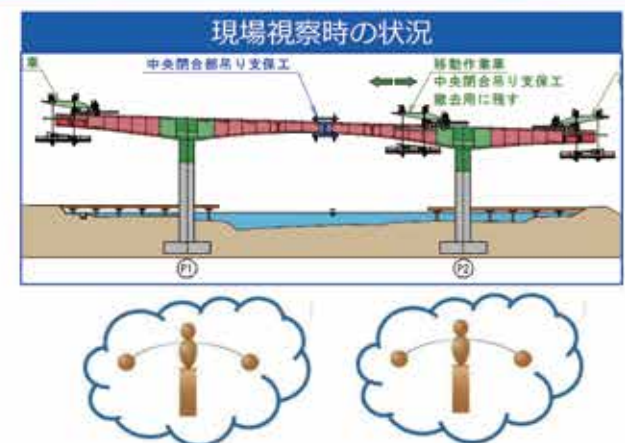
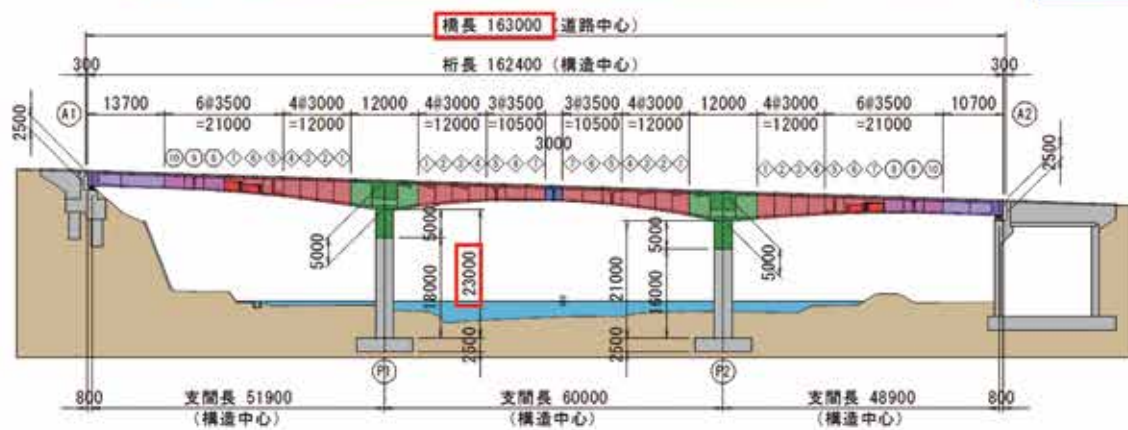
3 これまでに、五所川原市脇元沖の1か所で整備を完了し、今年度から鰺ヶ沢町舞戸町沖及び深浦町田野沢沖の計2か所で整備に着手しています。

4 今後も、深浦町風合瀬沖や広戸沖など残り11か所で藻場を計画的に整備し、西北地域における水産資源の回復に取り組んでいくこととしています。



国道101号追良瀬Ⅱ期バイパス（仮）新追良瀬橋 橋梁架替工事【深浦町】

追良瀬バイパスは平成19年供用のⅠ期工区(2.4km)を含め、総延長6kmのバイパス事業。
現在、追良瀬Ⅱ期バイパスを整備中であり、うち1工区L=2.4kmは令和9年度完成予定【完成目標公表】



追良瀬バイパスいよいよ「163メートル」橋桁工事が始まる

延長163メートルの長い橋、どうして作るんだろうか、と興味深く見守っていました、下部工と言われる橋脚から、それぞれ、右に左に張り出し、つまりは、てんびんのように伸ばして最後にドッキングする、大変な工事であります。

上の図面、(県土整備部の資料)と一緒に見比べていただければよく分かると思います。



問4 西海岸地域への誘客について

私の地元である鱒ヶ沢町や隣接する深浦町が位置する西海岸地域は、多種多様な動植物が生息する世界自然遺産白神山地や、白神山地がもたらす栄養豊富な海が広がっており、様々なアクティビティをはじめ、山菜や魚介類などの食資源を堪能できることが地域の魅力だと考えています。

私は、西海岸地域の振興のためには、このような豊かな自然や食資源を生かしながら、「観光」を通じた交流人口の拡大が必要だと認識しております。

昨年度、白神山地が世界自然遺産に登録されて30周年を迎えたことを契機に、県外の観光



「残雪の白神山地」深浦町の資料から

客だけでなく海外からの観光客の訪問が少しずつ増えてきたことを実感していますが、今後も引き続き、白神山地をはじめとする西海岸地域の観光資源を生かし、多くの国内外の観光客の方々に同地域を訪れていただきたいと考えています。

そこで、西海岸地域への誘客に向けて、県はどのように取り組んでいくのか伺います。

西海岸地域への誘客に向けて、県はどのように取り組んでいくのか伺いたい。

答1 西海岸地域への誘客に向けて、県では、雄大な自然等を生かしたトレッキングやサイクリングなどのアウトドアスポーツによる旅行需要の創出に取り組むとともに、国内向けには、令和8年3月の北海道新幹線開業10周年を見据え、JR東日本やJR北海道と連携しながら、リゾートしらかみを活用した誘客プロモーションを展開していくこととしています。

2 また、インバウンド向けには、自然体験や食、温泉、ゴルフ・スキーなど、外国人に魅力的な観光資源をSNS等で情報発信するとともに、海外の旅行会社へのセールス等の実施により、西海岸地域への更なる誘客につなげていきます。



深浦町では、自然や食、温泉の他室町時代の建造物円覚寺の歴史文化が名高い。

「文教、公安常任委員会」(県内調査5月22日)

県民が安全安心交通事故の無い社会を目指し、今日も出動する白バイ隊員



県警察、女性白バイ隊員、出動準備に余念がない。

警察本部交通機動隊、警察活動の状況について調査いたしました。

警察本部交通機動隊は、交通取り締まりの他に、この写真の様なバイクによる厳しい訓練も続けているのです。例えて色々な災害を想定し、人命救助にあたる。

その現場には車では行けない、さればバイクならいけるかも、上り坂の山道や、想定外を想定した「がれき」をぬって進む、県民の安全安心身体を守る為に、命がけと言っても過言でない、日夜活動をしているのです。感謝、感謝の気持ちでいっぱいです。

